

東邦大学学術リポジトリ



OPAC

東邦大学メディアセンター

タイトル	泌尿器科学講座(佐倉):More than expected
別タイトル	Department of Urology (Sakura): More than expected
作成者(著者)	鈴木, 啓悦
公開者	東邦大学医学会
発行日	2014.05
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 61(3). p.153 154.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.61.153
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD48990730

教室(診療科)紹介 (92)

More than expected

泌尿器科学講座 (佐倉)

教授：鈴木啓悦
高波眞佐治
講師(医局長)：神谷直人

東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科は、平成3年の佐倉病院開院とともに開設された。佐倉病院の増床とともに、平成22年4月より泌尿器腹腔鏡センターも併設され、鈴木をふくめた5名が着任し、診療規模の拡大が行われた。

平成23年4月より、鈴木が診療科責任者となり、平成26年3月現在、教授2名(鈴木啓悦・高波眞佐治)、講師1名(神谷直人)、助教5名(西見大輔・上島修一・直井牧人・矢野 仁・遠藤 匠)、シニアレジデント1名(内海孝信)、レジデント2名(岡 了・李 芳菁)の総勢11名のスタッフにより運営されている。

診療内容の特徴

当科の特徴としては、腹腔鏡・内視鏡手術などの低侵襲治療に積極的に取り組んでおり、昨年度は年間30件以上の腹腔鏡手術や年間300件以上の内視鏡手術を実施している。腹腔鏡手術の技術認定医も、鈴木・神谷・上島・矢野の4名が認定されており、若手の研修にも取り組んでいる。尿路結石治療については、体外衝撃波結石破碎機・経尿管的結石破碎術・経皮的腎結石破碎術のすべてのアプローチが可能となっており、千葉県内の広い範囲から患者さんをご紹介いただいている。

癌治療に関しては、quality of life (QOL) を重視した集学的治療に取り組んでいる。特に前立腺癌に関しては、鈴木がprostate specific antigen (PSA) 監視療法に関する国際共同試験Prostate Cancer Research International Active Surveillance (PRIAS) の研究メンバー、放射線医学総合研究所重粒子線治療班員、新規検査薬NMK36の医学専門家、新規去勢抵抗性薬のアドバイザーなどで活動している。千葉県内でも有数の診療実績で、前立腺全摘除術も年間50件以上施行しているほか、多くの新薬治験も並行して行われている。

院内他診療科との連携として、排尿機能に関しては神経内科と、副腎腫瘍に関しては糖尿病・内分泌・代謝センターと連携し、大学病院としての質の高い医療の提供に心掛けている。高波教授が、リプロダクションセンター長として、アンドロロジー・生殖分野をリードしている。



医療センター佐倉病院泌尿器科のスタッフ

前列左より 直井助教、西見助教、高波教授、鈴木教授、神谷講師、上島助教
後列左より 李レジデント、矢野助教、内海シニアレジデント、岡レジデント、遠藤助教

研究・学術活動

学術面に関しても、しっかりとした診療をベースに、泌尿器腫瘍・腹腔鏡・内視鏡・排尿機能・内分泌・尿路感染症・男性機能の領域を中心に積極的に学会発表・論文公表している。競合的研究費についても積極的に応募し、鈴木・神谷・内海が科学研究費補助金を取得している。学会での受賞も多く、最近では、神谷が「第49回日本癌治療学会学術集会・優秀演題賞」「第101回日本泌尿器科学会総会・第71回坂口賞」を、上島が「The 4th Asian Pacific Prostate Society (APPS) Young Investigator Award」を、内海が「第24回日本内分科外科学会総会・優秀ポスター賞」を、岡が「第608回日本泌尿器科学会東京地方会・ベストプレゼンテーション賞」をそれぞれ受賞している。

医療連携への取り組み

平成23年1月より、鈴木が医療連携・患者支援センター長を併任しており、泌尿器科医のみならず、かかりつけ医との連携を推進するために、「千葉県中央医療連携協議会」を周辺3医師会のご協力のもと立ち上げて年1-2回カンファ

レンスを開催している。また年1回「東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科たより」を作成し、診療・研究内容を広報して、医療連携を促進している。医局員の出張先も佐倉病院から20km圏内に集中して、地域中核病院としての機能強化に努めている。これらの取り組みによって、診療実績もこの4年間で約5倍に拡大した。

おわりに

当科では各人が常に向上して自らの限界を超えることを目標に、“More than expected”を信条に、医局員一同協力して、診療・研究などに取り組んできている。卒前・卒後教育に関しては残念ながら、M4の系統講義とM5の臨床実習の一部での関与であり、佐倉病院泌尿器科のさらなる貢献は今後の課題である。大森病院・大橋病院とはそれぞれ専門領域の違いもあり、多様化する泌尿器科診療に対応するためにも、今後さらに協力し合って、東邦大学医学部泌尿器科学講座が発展するように努めていきたいと考えている。

(教授：鈴木啓悦)